

しみずの教育 ちよっといひ話

【平成28年4月号】

清水小学校

校長 山下 勇

「笑顔で登校 笑顔で下校」する清水小の子どもに

新たに7名の教職員が着任し、新たな体制でスタートした「チーム清水小」。全校児童289名のために、よりよい教育環境づくりに努めていきます。

今年度も“笑顔”を大切に、「生き生きと瞳を輝かせて学び、活動する子ども」（知）「相手のことを思いやる優しさ」と正しい言葉で話す子ども」（情）「最後までやりぬく忍耐力と行動力のある子ども」（意）「立腰を身に付け、遊びや運動で汗を流す子ども」（健）「きまりを守り、協力し合って活動する子ども」（社）の育成をめざして、「清水小学校だからできる教育」を推進していきます。

今年は、「実」（まごころをもって取り組むこと、まことを大切にすること、みにすること）をキーワードに、本校の教育活動を実践・実行しながら工夫・改善を図り、教職員一人一人の授業力や指導力、教師力、さらには学校力・チーム力を高めていきたいと思ひます。

保護者や関係機関、地域の皆様には、本校の心強い応援団として一層のご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。

学校のリーダーとしての自覚

4月7日（木）6年生が新学期及び入学式の準備のために登校してくれました。分担ごとに別れ、各教室の準備、1年生の教室の準備や飾り付け、会場の準備等を手伝ってくれました。ものを運んだり、飾り付けをしたり、掃除をしたりするなど、積極的にてきぱきと活動する子どもたちの姿から、最高学年・学校のリーダーとしての自覚とやる気が伝わってきました。6年生の子どもたちが、とても頼もしく、輝いて見えました。たくさんの先生方から、「さすが6年生だね」「とても働く6年生」「すごく助かったよ。ありがとう」という声をかけられていました。きっと、清水小学校の「顔」として、自分たちのよさ・特徴を十分に発揮し、活躍してくれるものと大いに期待したいと思ひます。



元気でしっかりした1年生 49名を迎えての入学式

元気で、しっかりとした1年生49名が入学しました。堂々と入場してくる姿、静かに話を聞いて返事をする姿、教室での様子などを見ていると、落ち着いて行動できる立派な1年生でした。学校での新たな経験や体験を通して、学びの力や行動力、忍耐力、表現力などを身に付け、パワフルな1年生になってほしいと思います。“がんばれ 1年生！！”

御影小学校



入学・進級おめでとうございます

校長 近藤 弘子

寒さの中、じっと準備していた草木が芽吹く季節となりました。学校も新学期が始まり、子どもたちの声が響きわたり、入学・進級の喜びで一気に活気づきました。どの子の顔も新しい学年への期待感を表し、ニコニコとてもいい表情をしています。

学校は5月1日に満100歳を迎えます。開校100周年のお祝い行事も本番の年です。この大きな節目のイベントに子どもたち・教職員・保護者・同窓会・地域の皆様と力を合わせ創り上げていくことに喜びを感じています。

さて、平成28年度、本校は1年生16名を迎え、全校児童140名。教職員の転入者4名を含め、20名でスタートしました。始業式では、次のような話をしました。

御影小学校の目標は、「みんなで学び かたをくみあう げんきな子」。その目標に向かうために、「よく考えて表現できる子」「心豊かでやさしさのある子」「自らやりぬくたくましい子」という子ども像があります。この目標に向かうために学級目標や個人のめあてを決めていくと思いますが、そのときに2つ考えてほしいことがあります。

1つ目は、3つの「あ」です。100周年でたくさんの方が御影小を訪れます。その時に、今まで続けてきた3つの「あ」、「あいさつ」「あとかたづけ」「ありがとう」でおもてなしをして下さい。今年の3つの「あ」は、いつもの年とは格別に違う、明るい「あいさつ」、振り返って「あとかたづけ」、心からの「ありがとう」。この3つの「あ」で、御影小っ子「石の子」の素晴らしさを出してほしいです。

2つ目は、「根気強く頑張りを続ける」ことです。自分を信じて、苦手なことも克服できるような目標をもって下さい。大切なことはあきらめずに努力し続けることです。努力し続ければ必ず願いはかなうはずです。努力し続ける自分に自信をもち、進級した学年で新たなことへチャレンジしてほしいと思います。

今年度も私たちは、保護者・地域の皆様の声に耳を傾け、教職員一丸となって教育活動を進めていく所存です。皆様方には、今後とも本校の教育活動に対しご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、年度の初めにあたってのご挨拶といたします。1年間、どうぞよろしく願いいたします。

清水中学校

「表情豊かに六華をまとう生徒」をはぐくむ

校長 宝 輪 博 継

56名の新生を迎えて1週間。現在はクラス替えのなかった3年生も含め、新しい学級の基盤作りが着々と進められているところです。学級の役員や係を決めたり、生活や学習にかかわる個別の目標を立てたり。同時に3年生は3泊4日の函館・東北地方への修学旅行を間近に控え、そちらの準備も大詰めです。

いずれにせよ、進学や進級を果たして、それぞれに新たな思いを胸に、新しい生活をスタートしたところですから、この機を逃さずに、自らの歩むべき道をしっかりととらえさせるとともに、学校生活への意欲や意識を高めていきたいところです。

新年度に当たり、清水中学校の職員が一丸となって進める教育活動の重点を「学校・地域に誇りをもつ生徒をはぐくむ」「表情豊かに六華をまとう生徒をはぐくむ」の2点に定めました。

楽しく充実した学校生活や、共に学び共に過ごすかけがえのない仲間存在を背景に、清水中学校で成長する喜びを体得させ、さらに清水の豊かな自然環境や、そこで暮らす人々から多くを学び、清水に生まれたことを誇りに思うような生徒をはぐくみたい。

「六華」として目標に定めた「探究・自学・明朗・協力・健康・努力」が、変化の激しい社会で生き抜くために重要な力であることを知り、学校生活で学びを深め、多くの体験を積んで、笑ったり泣いたり苦しんだり怒ったり、表情豊かに過ごす中で、しっかりと六つの華を身にまとう生徒をはぐくみたい。

そうした思いからこれらの重点を定めたところです。

3月の卒業式や、先の入学式において、代表の生徒たちが何度も「伝統」という言葉を口にしてくれました。生徒たちが心をひとつに取り組む学校行事や第九の合唱、組体操はもちろん、しっかりと「六華」を身に付けるための努力を重ね、そこにいっただけで「清中生」と判るほどのたたずまいを身に付けることこそが、生徒たちと共に大切にしていきたい清水中学校の「伝統」です。

しっかりと顔を上げ、体を向けて胸で話を聞く姿勢。笑顔を添えた、元気でさわやかな中学生らしい挨拶。落ちていたゴミや困っている仲間に気付くだけでなく、拾ったり手を差し伸べたりという行動に移せることなど、さらに清中生としての姿に、より高いレベルの価値

を加えて「伝統」に磨きをかけていきたいと考えています。

教育は学校だけで完結する時代ではありません。敷居が高いと言われがちな中学校ですが、今年も様々な通信やブログなどとおして学校の様子を伝え、開かれた学校づくりを目指してまいります。思春期で寡黙になる時期の中学生ですが、ぜひご家庭でも積極的にお声かけいただき、共にはぐくむ「共育」にお力添えをいただきたいと思います。

御影中学校

校長 寺島 康博

「入学おめでとう」 23名の新1年生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、今日から、伝統ある御影中学校の一員です。担任の先生から一人ひとりの名前を呼ばれ、背を真っ直ぐに伸ばした姿勢と、しっかりと返事をした声に、「今日から御影中の生徒として頑張ろう」という意気込みを感じました。



中学校生活は、長い人生の中で、最も伸び盛りの大切な時期です。一日も早く中学校生活に慣れ、充実した毎日をおくって欲しいと願っています。今までの殻にとらわれず、新しい自分を見付け、また、友達の素晴らしいところに学び、自分を鍛え、互いに切磋琢磨し、本校を卒業する時「御影中学校に来てよかった」「御影中学校で学んだことを誇れる」と、実感できるように頑張ってください。

1 学期始業式～各学年に転入生が加わりました～



中心となって積極的に取り組んでください。

今日から1年生は2年生に、2年生は3年生に進級することになります。3年生は最上級生として、本校を代表する顔ともいえるべき存在です。約10ヶ月後には、進路選択という人生の大きな岐路に差し掛かります。夢と希望と強い意志をもって、人生の岐路に立ちはだかる、大きな壁を乗り越えて行ってほしいと思います。さらに、学校行事、部活動、生徒会活動なども

2年生は、中堅学年として、思う存分、自分を磨き、充実した学校生活を送ってください。2年生は中だるみの学年と言われることがありますが、中学校の3年間はあっという間に過ぎます。御中生としての自覚と明確な目標をもって、自己の向上に努めるとともに、学校を

活性化させるために、臆することなく活動してください。

新しい年度のはじめにあたって、今年も心掛けてほしいことを2つお話しします。

1つ目は、いつも私が皆さんに言っている、合い言葉「ナイストライ」の100%の達成です。自分自身の夢や目標に向かって積極的にチャレンジしてください。

2つ目は、「毎日の家庭学習」です。勉強は、学生の本分です。やらなければいけないこと、身に付けなければいけないことです。中学校3年間の地道な積み上げが極めて大切になってきます。毎日の授業に集中して取り組み、授業の中で身に付けなければならないことは、しっかりと身に付けてください。そして、家庭学習の習慣化と充実を図ってください。

最後に、今日から各学年にそれぞれ転入生が加わりました。御中のことをいろいろと教えてあげてください。
(28年度入学式 式辞より抜粋)

清水高等学校

校長 西 嶋 潤 一

総合学科20期生、143名入学！

高校の入学式は始業式後の午後に行われることが多いのですが、本校はJRの関係等で、次の日に行っています。今年は4月9日、土曜日でした。平成9年に1期生を迎えた総合学科も20年目、昨年より18名多い新入生を迎えました。

入学式、担任からの呼名で一人ひとりが大きな声で返事をして立ち上がります。人数が多いせいか、前日に参加した中学校の入学式と比較するせいか、体も大きくすいぶん頼もしく見えました。遠くは香川県、大阪、神戸からの入学生もいますが、今年は清水町から32名、新得町が13名といつもより多くなって、校長としては大変楽しみにしています。芽室町から28名、帯広市から59名、JRやバスでの通学は大変ですが、早く生活のリズムを作って欲しいと思います。

総合学科推進部の設置、

国公立大学10名以上を目標に！

入学式の式辞の中で、「学校内の組織を変え、大学進学に就職に、今までよりさらにレベルの高い可能性を伸ばす教育体制」というお話しをしました。総合学科も20年目を迎え、今までの流れを検証する節目の時期となります。

本来、総合学科は教員数が増員され、本校も同じ規模の普通科、芽室高校より7名多くなっています。増員を生かして少人数や習熟度別の授業、各系列での実習等きめ細かな教育を行って来たのですが、内容をさらに見直すため、今年度から総合学科推進部を設置しました。

定評ある就職指導に加えて、進学でも今春4名の合格者を出した国公立大学に毎年5名、今年の入学生からは10名以上の合格を目標に掲げ、学校体制を整備します。これからの議

論になります。系列の授業も、より実社会に即した内容、就職に有利な資格取得等を考え、整備を進めます。

今春入学生には、推薦入学者の優秀さや一般入試での点数を考えると、北海道大学に合格できる生徒が何人もいます。十勝の町村部の高校は、昔は足寄高校から東大、大樹や池田、もちろん清水からも北大に複数合格という時代がありました。

帯広の高校に通わなくとも、また、通えない人も、地元の高校で自分の夢を叶える。また、帯広市内からも積極的に通ってきてもらえる、総合学科は本来、そうやってすべての生徒に対応できる魅力的な高校であるはずで。

原点に戻って、学校改革を進めることをお約束します。

夢に向かって挑戦、一步を踏み出そう！

昨年は「日本一」をテーマに生徒に話しをしてきました。今年のテーマは「挑戦」です。

日本一という目標をやめたわけではありません。常に日本一を意識し、目標としながらも、まず、一步踏み出し、今までできていないこと、避けてきたこと等に挑戦しよう、ということ。挑戦を継続できると様々な成果につながります。

生徒のより大きな成長を促し、教育活動を展開していきますので、地域の皆さまにも、是非、声をかけていただき、更には様々な場面で学校に来ていただければと考えています。

今年度も清水高校をよろしくお願い致します。



入学式、新入生宣誓



在校生合唱隊による校歌紹介



一年次団の先生方

第39回入園、進級式…

4月11日（月）、天候に恵まれたなか、第39回清水幼稚園入園式を行いました。

10名の新園児が保護者に手を引かれ、極度の緊張と不安の中での入場でした。（体調を崩して出席できなかった子が1名いたのが残念でした）子供たちにとって、初めての行事体験でしたが、式の最後まで椅子に座って良くがんばりました。

13日（水）には「汽車ぽっぽ」で園内めぐりを行いました。

また、さくら組とばら組に進級した在園児のお話を聞く姿勢と態度は、本当に立派でした。今年度初めての登園にもかかわらず、話をする人の顔を見て、集中して話を聞き、あいさつや返事も大きな声でしてくれました。今後、園児との園生活が本当に楽しみです。

年長・年中児が、卒園・入園式で移動した積み木や跳び箱などを13日に遊戯場に移動し、たんぽぽさんが遊べるようにと頑張ってくれました。



うさぎのよつばちゃん・・・元気になりました



昨年10月に病気にかかったうさぎの「よつば」ですが、動物病院でいただいた最後の投薬1月4日で完治しました。真冬のため、その後の養生を考え、幼稚園内で飼育してきましたが、3月28日に飼育小屋に戻しました。

まだ少々首が傾いているときもありましたが、小屋に戻るとしゃきっと治ったようです。

冬の間中1羽で暮らしていた「みみ」と最初はぎくしゃくした様子でしたが、一週間ほどで元のなかよし姉妹に戻ったようです。子供たち

も元気な2羽に餌をあげようと、草むらを一生懸命探し、新芽の草をあげてくれています。

ちょっとお時間をさいてご覧ください

清水町は、「心響」を教育理念とし、しみず「教育の四季」を実践指標として、心を通わせ、互いに響き合う感性豊かな教育を推進しています。

「ちょっといい話」は、開かれた学校の取組の一環として、町内の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校の特色ある教育活動や子どもたちの頑張り、先生方や保護者の心温まるエピソード等を紹介するものです。

今年度もみなさま方に広く情報を発信して参りますので、ちょっと時間をさいてお読みいただければ幸いに存じます。

(教育指導幹 清水彦一)